

論 文 内 容 要 旨

題 目

Association between motivation scale score and oral condition on receiving basic periodontal therapy

(歯周基本治療におけるモチベーションスケールスコアと口腔状態との関連性)

著 者

佐久間 愛

内容要旨

【目的】

本研究の目的は、日本人の成人に対するモチベーションスケールスコア (MSS) の有用性を評価するとともに、MSS を用いて歯周基本治療における口腔状態に関連したモチベーションを検討することである。

【方法】

対象は、静岡市の歯科診療所を初診で受診した 20～64 歳の歯周病患者 221 名である。患者のモチベーション評価尺度に関する 14 項目の質問紙を用いて MSS を算出し、MSS の主成分分析を行った。また、ベースライン時および歯周基本治療後の MSS と口腔保健行動項目、歯周状態 [Bleeding on probing (BOP) 率, Periodontal inflamed surface area (PISA)] および口腔衛生状態 [O'Leary の Plaque control record (PCR)] の関連を評価した。

【結果】

MSS は信頼性と妥当性の点で有用であることが示され、5 つの因子に分類された。ベースライン時 BOP10%未満の者は BOP が 10%以上の者と比較して MSS および MSS-Factor 1 (口腔衛生習慣) が有意に高かった。また、年 1 回の歯科健診受診、歯間部清掃用具を使用している者では、MSS および MSS-F1 が有意に高く、非喫煙者では MSS-F1 が有意に高かった。二項ロジスティック回帰分析では、ベースライン時 BOP10%以上と統計学的に有意な関連を認めた因子は歯間部清掃用具の使用であった。一方、歯周基本治療後の口腔状態および口腔保健行動に関する項目は、現在の喫煙状況を除き、すべて良好な改善を認めた。このうち、歯周基本治療後の PCR20%未満の者は MSS が有意に高く、歯間部清掃用具の使用および非喫煙者において MSS-F1 が有意に高かった。

【結論】

本研究で用いた MSS は有用であり、ベースライン時の歯周組織状態および口腔保健行動と関連した。歯周基本治療後、MSS および MSS-F1 の値は有意に増加した。また、歯間部清掃用具の使用は良好な口腔状態と関連し、MSS の高値とも関連した。したがって、高いモチベーションが歯間部清掃用具の使用により歯周病患者の口腔保健行動の改善に対するコンプライアンスに影響を与え、良好な口腔状態を導いた可能性が示唆された。